

# English Garden 第92話

"Haru and I were treated as if we were screen celebrities."  
Edwin O. Reischauer

## 「ハルと私はまるで有名な映画俳優のような扱いを受けた」 ライシャワー

元駐日アメリカ大使エドウィン・O・ライシャワーの7回目です。

1961年4月19日の朝7時前、ライシャワー夫妻は大勢の人の出迎えを受けて羽田に到着し、その歓迎の様子はNHKテレビの7時のニュースで生中継されました。「日米双方が実りあるパートナーシップによって互いに平和で豊かな世界を築こう」という日本語による大使着任の挨拶は、日本国民に深い感銘を与えました。"a Japanese-speaking American Ambassador with a Japanese wife"(日本語を話し日本人の妻を持つアメリカ大使)は、着任と同時に日本人の心をとらえたのです。



夫妻の人氣は一気に高まり、しばらくは何をしてもニュースになって、自由に散歩することもできませんでした。表題の言葉のように、二人は「マス・メディアからも一般の日本人からも、まるで有名な映画俳優がポップス歌手か、日本訪問中の王族のような扱いを受けた」のでした。

最初夫妻は、ライシャワー・ブームと呼ばれたこの異常なほどの人氣に大いに戸惑いました。「大学の教室と郊外の台所からいきなり外交界のトップ・サークルに引っ張りだされ」て、むしろ怖かったということです。でも、この人氣はプラスにも働きました。大使の発言がそれだけ大きく報道され、言うことがよく伝わったからです。

以前からエドウィンは、日米両国間の理解を深めることを中心にして仕事をしてきました。1960年代前半、日米がよく理解し合えないのは、双方の国民同士が相手のことをよく知らないからだというのが彼の信念でした。そこで、相互理解を進める上にもっとも有利な大使という立場を利用して多くの人々と対話し、目標に近づこうと考えたのです。

エドウィンはまず、大使館で働いている人々全員と握手し、声をかけて激励しました。館内の職員および護衛の海兵隊や運転手などを含めると900人近くになりました。ハル夫人も、大使館の女性職員やアメリカ人館員の夫人たち - - 総数650人になったそうです - - などをグループに分けてモーニング・コーヒーに招き、話し合いました。このような触れ合いのおかげで、その後の大使としての仕事がスムーズに進められたということです。

エドウィンは、日本の首相や閣僚、各党の党首をはじめとする政治家はもちろん、官吏や実業家や労働組合の指導者などとも積極的に会談しました。着任早々の6月には、池田勇人首相の初訪米に同行し、ワシントンに着くや首脳会談に備えて、ケネディ大統領やラスク國務長官らと事前の打合わせをしました。おかげで3日間の日米会談は順調に進み、両国の指導者のあいだにはよい関係が生まれて、大使の功績が大きく評価されました。ケネディ大統領は自分の目で日本を見たいと、訪日を熱望しておりました。

大使公邸には、アメリカから閣僚や議員、映画スター、音楽家、宇宙飛行士などの賓客が、月に1500人以上来訪することも珍しくなかったそうです。そうした客の接待のほかにも、大使の役目として昼食会、レセプションなどの出席も毎日のようにあり、そのたびにスピーチやコメントなどが求められました。

講演やテレビ出演の依頼もたくさんあり、そのための準備も必要でした。原稿はやはり英語で書くことが多く、それを大使館の職員が翻訳するのですが、その日本語は「直訳で固く、言いたいことが伝わらない」ので、エドウィンは自分で全部直さなければならず、なおさら忙しいと、日記の中で嘆いています。

多忙な公務のあいだをぬって、ライシャワー夫妻は多くの人と会うために、地方にも出かけました。39の都道府県を訪れて、およそ5万人の人に会いました。行く先々で大勢の人に囲まれ、気楽に会話することはなかなかできませんでしたが、地方の人々は大いに満足したようです。全県を訪問できなかったのは、後にベトナム戦争による反米感情が高まって「ライシャワー帰れ」を叫ぶ人々が現れ、警官が出動する騒ぎになったからです。

エドウィンによると、人氣はおもにハルに集まっていたそうです。ハルも各種の婦人団体の招きで講演をしたり懇談会に出席したりして女性たちとの交流を深め、「もう一人の大使」と賞賛されました。

(次回に続く)

### 参考文献:

"My Life Between Japan and America" Edwin O. Reischauer, Harper & Row, Publishers, New York

『ライシャワー自伝』エドウィン・O・ライシャワー著、徳岡孝夫訳、文芸春秋、1987

『ライシャワー大使日録』エドウィン・O・ライシャワー／ハル・ライシャワー著、入江昭監修、講談社、1995年